学校法人 兵庫医科大学 広報誌

兵医広報

2019
SUMMER
vol.247

特集　世界とつながる兵医の教育

世界とつながる兵医の教育

グローバルに活躍できる専門職の育成

文部科学省が2019年6月に発表した「海外の大学との大学間交流協定、海外における拠点に関する調査結果」によると、2016年度に国内の大学が海外の大学と結んだ交流協定数は約3万8,000件に達するなど、大学教育のグローバル化は大きく進展しています。この状況は、医療系大学も例外ではなく、国際交流の重要性は高まってきています。例えば、学生が卒業後のキャリアを描いた時に、海外で診療や研究を行うことは言うまでもなく、日本で外国人観光客を診療することも考えられます。こうした国際社会に対応するために、兵庫医科大学、兵庫医療大学では、海外の大学と連携しながらグローバルに活躍できる専門職の育成に力を注いでいます。

トゥルク応用科学大学

〔国・都市〕
フィンランド・トゥルク

〔交流内容〕
ライフサイエンス分野の共同研究充実にかかる学術交流

ビュルツブルグ大学

〔国・都市〕
ドイツ・バイエルン州
ビュルツブルグ

派　遣
〔対象学年〕第6年次
〔見学・実習先〕核医学科、循環器科、心療内科、麻酔科

受け入れ
〔対象学年〕第3、4年次
〔見学・実習先〕
下部消化管外科、呼吸器外科、脳神経外科、血液内科など

リエカ大学

〔国・都市〕
クロアチア・リエカ

派　遣
〔対象学年〕第5年次
〔見学・実習先〕
内科、外科、小児科、産科婦人科、ICU、麻酔科、神経科、眼科、放射線科、皮膚科、核医学科、歯科口腔外科

受け入れ
〔対象学年〕第5年次
〔見学・実習先〕
形成外科、麻酔科・疼痛制御科、ICU、産科婦人科、小児科、脳神経外科、血液内科、救急科、歯科口腔外科など

ソフィア医科大学

〔国・都市〕
ブルガリア・ソフィア

派　遣
〔対象学年〕第5、6年次
〔見学・実習先〕
未定

受け入れ
〔対象学年〕第5、6年次
〔見学・実習先〕
麻酔科・疼痛制御科、産科婦人科、輸血細胞治療学、脳神経外科、呼吸器外科、肝・胆・膵外科など

北京中医薬大学

〔国・都市〕
中国・北京

〔交流内容〕
中医薬と西洋医学に関する共同研究やシンポジウムなどの学術交流

派　遣
〔対象学年〕全学年次（全学部）
〔見学・実習先〕
中医学史、中医学概論、病院見学など

天津医科大学

〔国・都市〕
中国・天津

〔交流内容〕
国際学術シンポジウムの開催（年1回）、学生交流（相互派遣）

汕頭大学 医学院

〔国・都市〕
中国・広東省汕頭

派　遣
〔対象学年〕第2年次
〔見学・実習先〕医療施設見学研修・ボランティア

受け入れ
〔対象学年〕第4年次
〔見学・実習先〕
肝・胆・膵外科、小児科、産科婦人科、消化管内科、血液内科、上部消化管外科、生化学、病理学、生理学、遺伝学、病原微生物学など

アデレード大学

〔国・都市〕
オーストラリア・南オーストラリア州
アデレード

派　遣
〔対象学年〕全学年次（看護学部）
〔見学・実習先〕
英語コミュニケーションクラス、臨床事例講義、病棟見学など

受け入れ
〔対象学年〕第3年次
〔見学・実習先〕
日本語コミュニケーションクラス、看護学、薬学、リハビリテーション学、シミュレーション演習、病棟見学など

ワシントン大学

〔国・都市〕
アメリカ・ワシントン州
シアトル

派　遣
〔対象学年〕
第5年次末（臨床留学）、第5年次夏期（生命倫理研修1週間）
〔見学・実習先〕
小児科、内科、外科、家庭医療、放射線科、生命倫理講義、医療施設見学

受け入れ
〔対象学年〕第1～3年次
〔見学・実習先〕
小児科、糖尿病・内分泌・代謝内科、消化管内科

ラトガース ロバートウッド・ジョンソン メディカルスクール

〔国・都市〕
アメリカ・ニュージャージー州
ニューブランズウィック

派　遣
〔対象学年〕第6年次
〔見学・実習先〕
胸部外科、家庭医療、放射線科

受け入れ
〔対象学年〕第1～4年次
〔見学・実習先〕救急科など

兵庫医科大交流大学　兵庫医療大交流大学

※2019年7月現在の実績や予定を基に掲載しています

兵庫医科大学

世界に目を向ける学生をサポート

兵庫医科大学は2009年に国際交流センターを設立し、複数の海外大学と姉妹校提携や学術交流協定を締結することで、広く海外との関係を築いてきました。そうしたつながりから、現在は医学部生たちに、アメリカやドイツを中心とした大学病院の医療現場を体感できる機会を提供することを目的に、海外留学プログラムとして「病棟研修」と「見学研修」のプログラムを用意しています。また、学生交流の一環として兵庫医科大学に来る留学生のために、兵庫医科大学病院の臨床現場体験プログラムを設けています。

兵庫医療大学

将来を見据えたグローバル教育

兵庫医療大学は国際社会における医療現場に対応できる専門職を養成するため、長期休暇を利用した海外留学プログラムを用意しています。このプログラムは、語学力の習得はもちろんのこと、海外の医療制度や文化、生活習慣なども学ぶことができる医療に特化した留学です。現在はオーストラリアや中国への海外留学プログラムを準備し、学生の刺激となるような臨床事例に基づいた学習なども行われています。

NEXT
海外Program体験記

海外 Program 体験記

研修先 ビュルツブルグ大学（期間：1ヵ月）

兵庫医科大学 医学部 医学科 第6年次生

清水（しみず） 健太郎（けんたろう）さん

家庭環境も後押しして自然と目線は海外へ

幼いころから異文化と接する機会が多かったため、自然と海外に目を向けていました。大学では第5年次生の８月にワシントン大学に留学した後、ヨーロッパの医療の実態も知りたいと思い、ドイツへ留学。海外の研修では麻酔科と核医学で実習を行い、麻酔科では徹底的に手技をやらせてもらいました。ルートの確保や、バックバルブマスク換気、気管挿管、ラリンジアルマスク挿入、術中の麻酔管理などを実際の患者さんに行う機会がありました。また、核医学ではCTやMRI、PET/CTの読影方法、エコーのやり方を教えていただいた上、日本ではまだ主流ではない放射性物質を用いた治療まで見学しました。

日本の医療とドイツの医療

留学にあたって保険に加入する際、ドイツの治療費は日本と比べ物にならないくらい高いと知りました。そのためドイツ人はほとんどの人が保険に入っていますし、少し風邪を引いたくらいでは病院に行きません。

麻酔科にて私の指導医だったDr.ガイヤーと

日本の医療との違いは、研修でも感じました。一番印象に残っているのは、日本での実習は見学主体であるのに対して、ドイツでは積極的に医学生に手技を実践させるということです。それを可能にしているのはドイツの教育システムだと思います。というのは、日本は4～5人の小グループで実習を行いますが、ドイツの場合は長期休暇を使って学生自身が病院に実習したい科目、担当してほしい先生を指名し、マンツーマンで指導を受けるのです。手取り足取り教えてもらうことができますし、少しでも危険だと感じたらすぐにフォローがあります。このような実習形態にすることで、医学生の時点からより深い知識と実践力が身に付き、即戦力になることができるのだと感じました。

両端はヴュルツブルク大学の学生でドイツでの世話係

ホリデーでベルリンに行った際、遊覧船にて

海外研修経験で得たもの

海外研修では、医療的な知識や様々な手技はもちろんのこと、その現地の国の医療を実際に聞いたり体験したりすることで、日本と比較して良い点や改善の余地などを考えることができるようになりました。将来的にはこの海外留学で得た経験や考え方を生かして、小さい頃の夢であった国境なき医師団のような強い信念を持ったグループで働きたいです。

研修先 アデレード大学（期間：2週間）

兵庫医療大学 看護学部 看護学科 第4年次生

杉原（すぎはら） 詩織（しおり）さん／中野（なかの） 真実（まみ）さん

杉原：海外での医療のあり方を身をもって体験したくて、留学プログラムを利用しました。特に印象的だったのは、先住民族であるアボリジニの健康格差について学んだことです。日本のように大きな手術や治療ができる病院が都市部にしかないため、中央部に住んでいるアボリジニの人々は病院まで自力で来られないことが多い上、費用や言語の面でも十分な医療を受けることが難しいのだそうです。もともと興味を持っていたので、講義で深く説明していただき、とても勉強になりました。

アデレード大学の看護学生と一緒に実技演習に参加

中野：私は、語学体験が印象的でした。日常会話から、看護学部で役に立つような専門的な内容まで幅広い内容で、座学だけでなく、近くのモールや公園などに行って街中の人にインタビューもしました。看護学部の授業では演習、講義、PBLとさまざまな形式の授業に参加しましたが、実践型なものが多く、学生の授業に対する積極性を感じました。

多国籍の留学生と医師・患者役に分かれて問診や処置を行う様子

杉原：確かに、学生の授業への取り組みが主体的でしたね。小児看護の授業に参加した時、グループで必要な看護をアセスメントし計画を立案したのですが、アデレードの学生はすぐに必要情報を書き出して話し合いを始め、発表の際にも自ら手を挙げていました。教員からのフィードバックだけでなく他の学生に対しての意見も発表し合っていて、自分たちで授業を作り上げていく光景が理想的に感じました。

中野：あと、病院にも驚きました。とても広くて、より家に近い病床環境が作られていたんです。中庭や植木、大きな窓もあって、リラックスできそうでした。しかもそれは患者さんだけでなく、スタッフのためでもあると聞いたので、働きやすい環境だなと。

杉原：そうそう、病院の受付が空港の受付のように広くて、何軒も飲食店があり、食事をしながら呼ばれるまで待つことができるようになっていたので驚きました。入院期間は日本と比べてとても短く、侵襲があまり大きくない腹腔鏡手術などでは術後1日目で退院するのだそうです。

修了書を持つ参加メンバー

中野：日本との違いといえば、オーストラリアには多くの人種が住んでいるので、それぞれのアイデンティティを尊重して共生していることを感じました。今後看護師として働く上でも、価値観の多様性を理解して、患者さんに寄り添った看護をしてきたいと思います。

アデレード大学生と放課後に行ったボタニックガーデン

杉原：私も、今回の留学を通して、多様な患者さんに対応できるだけの英語力と文化的背景への理解が必要であると痛感しました。広い視野を持った看護師を目指したいです。

世界で活躍する先輩 Voice

派遣先 スーダン共和国

元JICA青年海外協力隊

高木（たかぎ） 恒介（こうすけ）さん

（兵庫医療大学 リハビリテーション学部 理学療法学科 2015年卒）

●職歴

2015年 4月～2017年6月　加納総合病院リハビリテーション科にて勤務

（2017年 7月～2017年9月　JICAの語学を中心とした訓練）

2017年10月～2019年4月　青年海外協力隊としてスーダンで活動

自らできることを探し、試行錯誤する日々

2017年10月～2019年4月まで、アフリカのスーダンという国に青年海外協力隊として派遣されました。スーダンの首都ハルツームにある義肢・装具支援機構に配属され、主に切断を余儀なくされた患者に対して実際に理学療法を行っていました。配属先からの要請内容は、現地スタッフへの知識・技術の伝達、マンパワーとしての活動、糖尿病予防の啓発活動でしたが、実際に行ってみると、あれをしてこれをしてと言われるわけではなく、自分でできることを探して赤十字の人たちと共に活動をするというものでした。

最初の半年から1年程度は働きながら配属先の改善点を探したり、現地語のアラビア語や切断に対する理学療法を勉強したりしていました。首都ハルツームの理学療法の現状を知るため、配属先以外の病院やクリニックを見学させてもらうこともありました。

しかし、配属先のベテランスタッフは私や赤十字の人たちの言葉に聞く耳を持たなかったので、若手中心に知識や技術の伝達を行っていくことに。配属先で何をしたら良いか分からなかった時に、私の言葉に耳を傾け、一生懸命学ぼうとしてくれた学生には励まされました。また、現地では整理・整頓について働きかけていたのですが、リハビリアシスタントが自発的に動いてくれるようになったこともうれしかったです。

大学での講義をとおして兵庫医療大学の学びを再確認

配属先には学生やインターンのように定期的に入れ替わりで新しいスタッフが来るため、切断面を治療するためにしなければならない評価や生活指導、セルフエクササイズと歩行練習の進め方について一緒に考えたり、指導をしたりしていました。また、人の紹介もあって大学で講義をさせてもらえることになり、現地の2つの大学合計約200名に対して、兵庫医療大学で学んだ「様々なことに疑問を持つ考え方」を教えました。積極的に授業を聞き、質問をしてくれる姿勢が印象的でした。

スーダンでは「一つの現象に対しては原因が一つである」という考え方なのですが、学生時代、学科の先生から繰り返し「なぜ？」と質問されたおかげで深掘りする考えが身に付いていたので、現地でも一つの現象に対して何度も問うことで、臨床の中での思考が重要であると伝えることができました。

緊急退避とスーダンの人々

スーダンは元々治安が良く、女性が夜出歩いても比較的、問題が少なかったのですが、パン等の物価の上昇、ガソリン不足や、ATMからの現金の引き出しが困難な状況などが相まって生活が厳しくなり、現地の人はデモンストレーションを行わざるを得ない状況になりました。

原因としては、内政状況が不安定であるという事情がありました。現地にいた日本人たちも良い方向に国が進むことを祈っていましたが、今後の見通しが立たないため、この春に緊急退避することになりました。

このような事態になる前は、首都の理学療法科のある大学併設のクリニックで、実際に臨床をとおして考え方や技術を共有しようと考えていました。

また、配属された施設は1日に40名から60名程度の切断が必要な患者が訪れる施設です。切断に至る主な原因が糖尿病であり、日本に比べると圧倒的に多いことから、「予防できないか」と思い、アンケートで現状把握をし、糖尿病関連の広報活動を行っている団体と話し合いをしていました。そこでは糖尿病患者に対する生活指導が統一化されていないことなどが問題点と考え、首都にある糖尿病施設から医師もしくは看護師、糖尿病患者への教育者を集め、セミナーを実施することになりました。

こちらも緊急退避のため実施できませんでしたが、糖尿病予防活動について、私の考えに同調し協力してくれ、セミナーの開催に動いてくれたことは印象深く心に残っています。

1年半イスラム圏の人と生活をし、何度も困ったことを助けてもらいました。これから、私にできる形で恩返ししていきたいと考えています。また、イスラム圏だけでなく、日本国内でも困っているのに十分に助けられていない人たちの手助けになるように活動をしていきたいです。加えて、寿命がこれからも延びていくと予想される中、健康寿命を延ばして元気に生活してもらうために様々な予防が重要になってきます。そのため、予防分野にも関わっていけたらいいなというのが、今後の目標です。

医科大 医療大 の

グローバル授業をのぞき見

兵庫医科大学

英語で学ぶ臨床推論

英語で学ぶ臨床推論は、第4年次生が対象で将来、医師として働くうえで必要となる“患者さんが訴える症状や症候から疾患を絞り込む”「臨床推論力」を身につけることをめざす科目です。授業中は全て英語で進めていくことがこの授業の特徴の1つ。英語で臨床症例を扱い、ディスカッションも全て英語で行うことで、諸外国の患者さんを診療する際に必要な力を学生のうちから習得することをめざします。

Point 英語で鑑別診断ができる力を培うカリキュラム

初回の授業で指定された症例を要約し、症状を引き起こす疾患を絞り込み、その診断の根拠を全て英語で発表する課題が与えられます。学生たちは、その課題をとおして、試行錯誤しながらも自らの見解を英語で伝える力を身につけていきます。授業内では討論が活発に行われ学生たちの意欲が伝わってきます。

兵庫医療大学

国際医療福祉論（看護学部）

国際医療福祉論は、グローバルな時代の看護専門職に求められる国際的な視野を育む科目です。第1～2年次生が対象となり、低学年次から諸外国の医療や福祉システム、看護の現状について理解することをめざします。また、グループワークをとおして、自ら興味のある国の健康問題の傾向や医療福祉の特徴について学びを深めていきます。

Point 諸外国の社会や文化、生活、価値観に触れ 日本の医療福祉を再認識

国際的な視野を持った看護専門職には、諸外国の文化や価値観を含めて理解することが必要不可欠です。学生たちは、グループで互いに意見を出し合い、日本と諸外国との違いを探究していくことで、日本の医療福祉にはどんな特徴と課題があるのかを考察していきます。

兵医広報

学校法人 兵庫医科大学 広報誌
vol.247 2019 SUMMER

CONTENTS

01 特集
世界とつながる兵医の教育

07 NEWS & TOPICS
・「第71回西日本医科学生体育大会 冬季大会」で好成績！
・日本薬学会第139年会（学会）でポスター賞を受賞
・学外オリエンテーション合宿を実施
・兵庫医科大&兵庫医療大の共同研究により大腸の新しい腸管メカニズムを発見
・兵庫医科大学 2018年度ベストティーチャー賞が決定
・兵庫医療大学 レクチャー・オブ・ザ・イヤー2018が決定
・約40年前に設置した銘石を教育研究棟の東側へ移設
・「第19回 地域医療懇談会」を開催
・在学生が企画する「スポーツ大会」を開催
・新生児期に見られる腸炎の新たな動物モデルを開発
・“世界禁煙デー”に合わせて学生が啓発活動を実施
・兵庫医科大学後援会「2019年度 総会および教員・保護者懇談会」を開催
・ボランティアグループによる「さなぶりコンサート」を開催
・学生のリーダーシップを養成する「リーダーズキャンプ」を実施
・「中学生のための模擬授業」を開催
・「オープンキャンパス」を6月に開催
・手術支援ロボット「ダビンチXi」による低侵襲手術を積極的に実施
・悪玉コレステロールを減少させる作用のある糖尿病治療薬を臨床試験で証明
・教育研究棟が優秀な照明施設として「照明普及賞」を受賞
・教員の教育力向上を目的としたセミナーを開催
・「第42回兵庫医科大学同窓会緑樹会 総会」を開催
・自分の特性を把握し“マネジメント力向上”を図る研修を管理職向けに実施

14 チームの力
認知症ケアチーム

知ってる？兵庫医科大学
日本初！「顔認証システムによる出欠確認」

15 卒業生INTERVIEW
患者さんの退院後の生活まで見据えたより深く寄り添う看護を提供したい
神戸市立医療センター西市民病院 看護師　久米 雄朗さん
（兵庫医療大学2015年卒）

17 HYO-i LAB -研究紹介-
全学との連携で脳内ストレス解明へ治療と予防のさらなる向上を目指して
兵庫医科大学 内科学 糖尿病・内分泌・代謝科
主任教授　小山 英則

法人からのお知らせ

19 各種報告
2018年度決算について

21 表彰・受賞など

23 人事情報

24 助成金交付状況／募金状況

25 主な行事予定（8月～10月）

医科大 お知らせ

「第71回西日本医科学生体育大会 冬季大会」で好成績！
～競技スキー部が文武両道を貫く～

チーム一丸となって戦った競技スキー部

2019年3月21日から3月27日にかけて菅平高原パインビークスキー場で開催された「第71回西日本医科学生体育大会 冬季大会」において競技スキー部が今年も練習成果を発揮し、好成績を収めました。オフシーズンにもチーム一丸となって練習に励んだことが今回の結果につながりました。

現在は、2020年3月に開催される次の大会に向けて、トレーニングに励んでいます。

大回転の2種目で連覇を成し遂げた
大城 葵さん（現第5年次生）

▶詳細は医科大WEBへ

医療大 研究・発表

～薬学部生が快挙！～
日本薬学会第139年会（学会）でポスター賞を受賞

ポスター賞を受賞した小椋茉春さん

2019年3月20日～3月23日の4日間、千葉県の幕張メッセにて「日本薬学会第139年会」が行われ、兵庫医療大学薬学部第6年次生（2019年6月現在）の小椋茉春さんがポスター賞を受賞しました。同学会での現役薬学部生の受賞は快挙であり、今後の活躍が期待されます。

研究テーマ
「酸化チタン上でのエナンチオ選択的水素化反応におけるマンデル酸の酸化的分解」

▶詳細は医療大WEBへ

医科大 お知らせ

「兵庫医科大学 2018年度ベストティーチャー賞」が決定

2019年3月22日の教授会の前に「兵庫医科大学2018年度ベストティーチャー賞」の表彰が行われました。兵庫医科大学では質の高い充実した授業を提供することをめざし、毎年「学生による授業評価アンケート」を実施。その結果、学生から支持された担当教員に学長から「ベストティーチャー賞」を授与しています。2018年度の受賞者および、受賞科は次のとおりです。

受賞部門	受賞者・受賞科
講義部門 第1年次	八木 秀司 主任教授（解剖学 細胞生物部門）
講義部門 第2年次	林 周平 講師　（病原微生物学）
講義部門 第3年次	栗林 康造 准教授　（内科学 呼吸器科）
講義部門 第4年次	廣田 誠一 主任教授（病理学 病理診断部門）
クリクラ部門	総合内科
ポリクリ部門	眼科
作問部門	庄司 拓仁 講師　（内科学 糖尿病・内分泌・代謝科）
ブラッシュアップ部門	福井 広一 准教授　（内科学 消化管科）

※所属・職位は2019年3月時点のもの

授賞式の様子

野口学長より各受賞者・受賞科に表彰状が授与されました

医科大 イベント

学外オリエンテーション合宿を実施
～新入生が夢を語り合う～

「医師としての夢」を語る新入生

2019年4月12日～4月13日の2日間、ユニトピアささやまにて「新入生　学外オリエンテーション合宿」を実施しました。この合宿は、新入生に大学における学修方法のあり方や、コミュニケーションを円滑に行う方法を学んでもらうことを目的に実施しているものです。新入生たちは「私の医師としての夢」をテーマにポスター発表に挑戦。最初は緊張していた学生たちも徐々に自信を持ち始め、終盤では堂々と発表していました。発表後は懇親会もあり、互いを深く知る良い機会となりました。

医科大 医療大 研究・発表

兵庫医科大&兵庫医療大の共同研究により大腸の新しい腸管メカニズムを発見

筆頭著者である楊 大学院生

兵庫医科大学 大学院 医科学専攻（神経解剖学）博士課程の楊燕京さんが筆頭著者として執筆した論文が、世界で権威のある医学雑誌の一つである「JCI Insight」に掲載されました。

本研究は、兵庫医科大学 解剖学 神経科学部門 野口 光一主任教授/学長や兵庫医療大学 薬学部 戴 毅教授等との共同研究で、大腸粘膜固有層にいるTransient Receptor Ptential (TRP) A1受容体を発現した間葉系細胞が大腸腸管運動を制御するという新しい生理学的メカニズムを発見しました。

▶詳細は医科大WEBへ

医療大 お知らせ

「兵庫医療大学 レクチャー・オブ・ザ・イヤー2018」が決定

2019年4月9日の全学教職員集会において「兵庫医療大学 レクチャー・オブ・ザ・イヤー2018」の表彰が行われました。2018年度前期・後期の学生による授業評価アンケートの集計結果に基づき、各学部から次の科目が「兵庫医療大学　レクチャー・オブ・ザ・イヤー2018」として選出され、表彰されました。

受賞科目	科目責任者
「新・生理化学Ⅰ（細胞）」（薬学部 第1年次前期）	山本 悟史 教授（薬学部 医療薬学科）
「疾病・治療論Ⅰ（内科）」（看護学部 第2年次前期）	常見 幸 准教授（共通教育センター）
「認知障害治療学演習」（リハビリテーション学部 作業療法学科 第3年次後期）	山﨑 せつ子 教授（副学長）（リハビリテーション学部 作業療法学科）

受賞後のスピーチの様子

藤岡学長より各受賞科目の科目責任者に表彰状が授与されました

医療大 4/20

学校法人兵庫医科大学連携病院の会「合同病院説明会」を兵庫医療大学アリーナにおいて開催。参加学生たちは、各医療機関の話を真剣な眼差しで聞いていました。
※本合同説明会は今年で10回目を迎えました。

学校法人 5/1

丹波篠山市から新家荘平名誉理事長に対して「特別感謝状」が贈呈されました。学校法人兵庫医科大学の理事長としての在任中に、地域医療へ貢献した功績が認められました。

大学病院 5/7～27

看護の日(5/12)にちなんで「私たちの“きらり”看護」と題したパネルを展示。「看護の心を、みんなの心に」というテーマで看護師が患者さんにメッセージを発信しました。

医科大 5/18

新入生に対して薬物の危険性を伝えることを目的に、大阪拘置所医務部長片山雅文先生による「薬物乱用防止」の特別講義を実施しました。

医科大 お知らせ

約40年前に設置した銘石を教育研究棟の東側へ移設

2019年5月14日、1981年の創立10周年時に旧3号館前に設置されて以来、長年、兵庫医科大学のシンボルとしてキャンパスを見守り続けてきた銘石（※写真）を教育研究棟の東側へ移設しました。

最先端の設備が整った教育研究棟で学ぶ学生たちは、創立時の精神を受け継ぎ、今後も新たな兵庫医科大学の歴史を刻み続けます。

教育研究棟のそばへ移設された銘石

大学病院 イベント

「第19回 地域医療懇談会」を開催
～地域医療機関との病診・病病連携を深める～

2019年5月18日、ホテルヒューイット甲子園において「第19回 地域医療懇談会」を開催しました。本懇談会は、阪神圏域の医師会を中心に、地域の医療機関との病診・病病連携を深め、社会が求めるより良い医療環境の充実に努めるため、毎年開催しています。

地域の医療関係者が集った懇談会

Ⅰ部の懇談会では、当院の医師3名よりそれぞれの部および科の特色について講演を行い、Ⅱ部の懇親会では、活発な意見交換が行われました。各医師会および各医療機関から医療関係者81名、兵庫医科大学病院関係者51名、合計132名の参加があり、盛会のうちに閉会しました。

医療大 イベント

“世界禁煙デー”に合わせて学生が啓発活動を実施

世界禁煙デーである5月31日、兵庫医療大学の学生がたばこの健康被害について考えてもらおうと、街頭キャンペーンを行いました。この取り組みは、神戸市が禁煙・受動喫煙防止の呼びかけのため毎年行っている啓発活動の一環で、学生たちは三宮駅周辺で朝の通勤客にチラシとティッシュを手渡しました。神戸市にある兵庫医療大学でも、従来からキャンパス敷地内および周辺道路を全面禁煙としており、禁煙・受動喫煙防止を推進しています。

啓発チラシを配付

医科大 イベント

兵庫医科大学後援会「2019年度 総会および教員・保護者懇談会」を開催

2019年6月1日、兵庫医科大学後援会「2019年度 総会および教員・保護者懇談会」を開催し、140人の保護者にご参加いただきました。教員・保護者懇談会では、辻村 亨 教務部長が「医師養成のための卒前・卒後教育と医師国家試験」、成瀬 均 医学教育センター長が「学生教育の現状」と題して講演しました。懇談会後の懇親会では、太城理事長、野口学長をはじめ教員と保護者が交流を深め、盛会のうちに終了しました。

多数の保護者にお集まりいただいた懇談会

医療大 イベント

在学生が企画する「スポーツ大会」を開催
～学部や学年を超えた交流～

2019年5月15日、在学生が中心となって活動する大学行事実行委員会主催の「スポーツ大会」を兵庫医療大学 アリーナにて開催しました。本大会は毎年学生が主体となって運営している恒例行事です。今年は1チーム8名で編成されたグループで、ドッジボールと借り物競争による対抗戦を行い、優勝を争いました。講義終了後の19時からの開催でしたが、多くの在学生が参加。競技前に円陣を組んだり、大きな歓声を上げたりして盛り上がりました。参加した学生は学部や学年を越えて楽しんでいました。

チーム対抗ドッジボール

医科大 研究・発表

新生児期に見られる腸炎の新たな動物モデルを開発
～兵庫医科大学遺伝学と東邦大学との共同研究～

兵庫医科大学 遺伝学 大村谷 昌樹教授は、東邦大学 生化学 中野 裕康教授が中心となった共同研究にて、ユニークな遺伝子改変マウスのアイデアと作製を担い、新たに開発した遺伝子改変マウスを用いて、ネクロプトーシスと呼ばれる新しいタイプの細胞死が、胎児期の小腸上皮細胞で生じることにより、重篤な小腸炎を発症することを明らかにしました。本研究成果は、ヒト新生児で発症する重篤な壊死性腸炎の発症メカニズムの解明や新たな治療法の開発につながることが期待されます。なお、本研究は現地時間2019年5月24日に米国・科学誌「iScience」に掲載されました。

ネクロプトーシス細胞による小腸炎発症のメカニズム

▶詳細は医科大WEBへ

ささやま イベント

ボランティアグループによる「さなぶりコンサート」を開催
～音楽で癒しのひとときを～

2019年6月7日、篠山キャンパスにて、ボランティアグループ「ささゆり」による「さなぶりコンサート」を開催しました。当日は約50名の患者さんやご家族が参加。テノール歌手の畑儀文さんによる歌をはじめ、地元小学校の1年生やボランティアグループ「ささゆり」によるピアノ演奏、子育てママと子どもたちによるウクレレ演奏など盛りだくさんの内容で、参加された方々に楽しいひとときを過ごしていただきました。

優しい音色に包まれた玄関ホール

医療大 イベント

学生のリーダーシップを養成する「リーダーズキャンプ」を実施

2019年6月8日～9日にかけて、「学生会」「大学行事実行委員会」「公認課外活動団体」としてのあり方について理解を深め、各々の役割を認識することを目的としたリーダーズキャンプを実施。グループワークや討議、内容発表、講演会を行いました。グループ討議では「部活とサークルの違いとは」などのテーマが与えられ、各グループで直面している問題点と解決策を話し合いました。また、講演会では外部より講師をお招きし、チームで活動する際のミッションやビジョンの共有、チームメンバーへのアプローチ方法などについてお話しいただきました。

課題解決のためにグループ討議

医科大 5/18
住吉霊園（神戸市東灘区）にて、「2019年度 篤志解剖体納骨式」を執り行い、野口学長をはじめ、解剖学講座などの教職員が参列しました。

大学病院 5/23
小児科病棟に入院中の子どもたちに笑顔になってもらおうと「てんたん人形劇場」を実施。参加した子どもたちは、紙コップで作られた人形に興味いっぱいの様子でした。

大学病院 6/1
兵庫医科大学病院にて2020年度採用の「初期臨床研修医募集説明会」を開催。学内から57名、学外から21名、合計78名の学生に参加いただきました。

ささやま 6/6～
ささやま医療センターでは職員の健康管理および研修医・学生への教育を目的に職員向けの「ココモチェック」を定期的に実施。2019年6月は11日間実施し、多数の参加がありました。

医科大 イベント

「中学生のための模擬授業」を開催
～医学教育を早くから体感～

2019年6月2日、中学生を対象とした「中学生のための模擬授業－ようこそ医科大学へ－」を開催しました。本イベントは医学部に興味を持っている中学生に兵庫医科大学の授業を体験してもらう企画で、昨年から開催しています。今年も募集定員約30名のところ100名を超えるたくさんの応募がありました。

当日は医学部の自然科学実習体験として「アスピリン（解熱鎮痛剤）を作ろう！」「光学顕微鏡を使った細胞分裂の観察」を行いました。参加した中学生は兵庫医科大学の学生が実際に使用している実習室で、緊張しながらも協力し合い、積極的に実習に取り組んでいました。その後、お昼は教育研究棟の学生食堂で楽しくランチを体験。医学部を一日満喫していただき、参加者からは「今回の授業で、医学部へ進学したくなりました」などの感想が寄せられました。

協力し合いアスピリンを作成

光学顕微鏡で細胞分裂を観察

医療大 イベント

「オープンキャンパス」を6月に開催
～医療系大学を志望する高校生をおもてなし～

2019年6月9日、兵庫医療大学キャンパスにて高校生・受験生を対象としたオープンキャンパスを開催しました。408名の来場者が訪れ、大盛況のイベントとなりました。来場者には、「大学全体ガイダンス」や、各学部・学科の学びを紹介する「学部・学科ガイダンス」、最新の入試情報を理解してもらう「入試ガイダンス・入試個別相談」などに参加してもらいました。

メインイベントの「卒業生特別企画」では、現役の医療専門職者として活躍している各学科の卒業生がパネルトークに登壇。司会の在学生スタッフとのやり取りの中で「仕事のやりがいや大学の学びが仕事にどう役立っているのか」などを紹介しました。参加した高校生や受験生はイベントをとおして受験に向けての意欲を高めていました。

来場者も興味津々の卒業生によるパネルトーク

在学生が大学施設を紹介

学校法人 6/11
北京中医薬大学と合同で「東西医学の融合」をテーマとした「中医薬孔子学院第7回学術シンポジウム」を実施。多数の方に参加いただき盛況のうちに終わりました。

ささやま 6/14
ハラスメント（セクハラ・パワハラ・マタハラ全般）に関する研修会を紀洋会岡本病院と合同で実施。参加した教職員にとってハラスメントの認識を深める良い機会になりました。

大学病院 お知らせ

手術支援ロボット「ダビンチXi」による低侵襲手術を積極的に実施
～胃がん手術 50症例に到達～

兵庫医科大学病院では、手術支援ロボット「ダビンチXi」による手術を積極的に実施しています。熟練した外科医でも困難な繊細な動きを可能にした支援ロボットのため、術創はかなり小さく、より低侵襲な手術が可能です。

2012年から手術を行ってきた泌尿器科における前立腺がんおよび腎がんの症例数は380症例を超え、2019年3月29日には、上部消化管外科による胃がん手術症例が50症例に達しました。そのほか、下部消化管外科、産科婦人科においてもダビンチ手術を実施しています。

■兵庫医科大学病院におけるダビンチ手術実績
2019年7月12日現在

診療科	対象疾患	手術実績
泌尿器科	前立腺がん	338症例
	腎がん	50症例
上部消化管外科	胃がん	63症例
下部消化管外科	直腸がん	9症例
産科婦人科	子宮筋腫	1症例

「ダビンチXi」術者操作風景

ロボットアーム（鉗子（かんし））側

医科大 研究・発表

悪玉コレステロールを減少させる作用のある糖尿病治療薬を臨床試験で証明
～兵庫医科大学 臨床疫学と琉球大学との共同研究～

兵庫医科大学 臨床疫学 森本 剛教授および琉球大学大学院医学研究科 臨床薬理学 植田 真一郎教授らの研究グループは、血液中の悪玉コレステロール（LDLコレステロール）値を下げる薬（スタチン）を既に服用しているハイリスク※の2型糖尿病患者に、糖尿病治療薬（DPP4阻害薬）を1年間投与する臨床試験を行った結果、糖尿病治療薬「アナグリプチン」に、さらに悪玉コレステロールを減少させる作用があることを明らかにしました。

本研究結果は、悪玉コレステロールをさらに減少させる効果のある糖尿病治療薬が明らかになったことにより、将来の心臓病や脳卒中の予防につながることが期待されます。なお、本研究は現地時間2019年6月12日に英国・国際科学雑誌「Scientific Reports」に掲載されました。

※心筋梗塞や脳卒中などの心血管疾患

■試験デザイン

▶詳細は法人WEBへ

大学病院 6/15
認知症疾患医療センターにて、認知症疾患の理解と進行抑制を目的とした少人数の患者さんプログラムを実施。参加された方と一緒に認知症予防体操を行いました。

医療大 6/20
兵庫医療大学にて高校教員等を対象に大学・入試説明会を開催。今年度から導入されるAO入試の詳細な説明や、昨年に引き続き在学生による大学説明を行いました。

学校法人 お知らせ

教育研究棟が優秀な照明施設として「照明普及賞」を受賞

「照明普及賞」を受賞した教育研究棟の照明

学校法人兵庫医科大学は、一般財団法人照明学会により「照明普及賞」を受賞しました。この賞は、施設の企画、設計、施工などに多大な功績のあった法人などに与えられるもので、今回、西宮キャンパスにある教育研究棟が、照明技法や照明効果などの観点から評価され、2018年度の地域を代表する照明施設として表彰されました。

2019年6月14日には、東京大学にて表彰式が行われ、一般財団法人照明学会 豊島 久則会長より表彰状と記念盾が授与されました。

医科大 イベント

教員の教育力向上を目的としたセミナーを開催

滋賀医科大学 臨床教育学講座 伊藤俊之 教授による講演

2019年6月21日、滋賀医科大学 臨床教育講座 伊藤俊之教授をお招きし、教員の教育力向上を目的としたセミナーを開催しました。テーマは「臨床実習後OSCE(Post-CC OSCE)について」。臨床実習後OSCE(Post-CC OSCE)とは、臨床実習終了後に第6年次生の臨床技能と態度を評価する実技試験のことを指します。兵庫医科大学では2002年度からAdvanced OSCEとして実施してきましたが、この度、共用試験実施評価機構がPost-CC OSCEとして実施することになりました。当日はOSCEに携わる教員が中心に参加し、その意義と概要の理解に向けて知見を深めました。

医科大 イベント

「第42回兵庫医科大学同窓会緑樹会 総会」が開催

2019年7月6日、「第42回兵庫医科大学同窓会緑樹会 総会」が開催され、2018年度事業報告、決算案などの議案が可決承認されました。続いて、5名の卒業生による講演が行われ、興味深い内容に会場も盛り上がりました。また同日、「第2回緑樹会学術奨励賞」の表彰式を実施し、橘 俊哉医師(1991年卒業)、都築 建三医師(1996年卒業)が受賞。各地で活躍する卒業生が集い交流を深める良い機会となりました。

■講演会で登壇した卒業生

講演者	兵庫医科大学 卒業年
羽竹 勝彦 医師	1979年
石藏 礼一 医師	1982年
髙雄 由美子 医師	1987年
大黒 正志 医師	1993年
松阪 諭 医師	1994年

石藏礼一会長から事業報告について説明

学校法人 イベント

自分の特性を把握し“マネジメント力向上”を図る研修を管理職向けに実施

ポジティブな感情になる言葉をグループで共有

2019年7月11日、「管理者向け感情マネジメント力向上研修」を開催し30名が参加しました。参加者は事前にEQI検査(行動特性検査)を受検し、自分の特性を把握。EQとは「こころの知能指数」と言われ、EQを高めることで意識や行動を変えることで自ら磨き高めていくことができます。マネジメント、部下指導力の向上はもちろん、職場のムードをよりよく変えることが期待できるといわれており、「客観的に自分を振り返ることができる」と参加者に大変好評でした。

学校法人 6/22～23

2019年度幹部教員FDをスペースアルファ神戸にて開催。兵庫医科大学と兵庫医療大学の教員を対象に29名が参加しました。

大学病院 7/6

兵庫医科大学病院にて、産業医活動を行うために必要な基本的知識および技術を習得することを目的に「産業医学研修会」を開催しました。

チームの力

法人内のチームの動きをご紹介します

認知症ケアチーム ～身体疾患の治療が円滑に行えるように心と身体のケアを～

何らかの病気によって、脳の神経細胞が壊れるために起こる症状や状態をさす「認知症」。認知症が進行すると、だんだんと理解する力や判断する力がなくなり、社会生活や日常生活に支障が出てくるようになります。こうした認知症の方が患者さんとなって入院する場合、“入院”といった環境の変化への適応が難しく、認知症の症状がさらに悪化することが懸念されます。また、認知症の症状があると、転倒やルート抜去※などの身体疾患の治療に影響がでることも考えられます。

兵庫医科大学病院では、そうした認知症の患者さんに対して多職種で連携しながらケアを行う「認知症ケアチーム」が2019年4月に発足しました。

「認知症ケアチーム」は、各病棟を1週間に2回程度巡回して該当患者さんの状況に変化がないかを確認。病棟における認知症ケアの実施内容を把握し、患者さんやご家族、病棟スタッフに対してケア方法の助言を行います。また、カンファレンスも1週間に2回実施し「適切なケアを行えているか」「認知症が進行していないか」などの情報を共有しています。

その他にも院内スタッフを対象とした認知症患者さんのケアに関する研修会を定期的に開催するなど病院全体でケアできるように取り組んでいます。※点滴などの管を抜くこと

～構成メンバー～
・医師(脳神経内科)1名　・医師(精神科神経科)1名
・看護師1名　・精神保健福祉士1名

病棟で認知症ケア方法を助言

カンファレンスで患者さんの情報を共有

知ってる？ 兵庫医科大学

兵庫医科大学の“すごい”や“隠れた魅力”をご紹介します

わずか2秒でできる！？ 日本初！「顔認証システムによる出欠確認」

昭和や平成時代の出欠確認と言えば、「口頭」あるいは「出席用紙」によるものがほとんどで、一歩進んだ大学では「ICカード」を専用機にかざす方法が中心でした。そして令和の今、兵庫医科大学で行っているのは「顔認証システム」を利用した出欠確認です。

座学形式の授業が中心の1～4年次の学年講義室に専用のタブレット端末を設置し、授業中にタブレットを回して、一人ずつ搭載されたカメラに顔を映して認証を行います。タブレットを受け取ってから出席が認証されるまでの時間は、わずか2秒程度！本格導入した2019年4月以降、出席確認に必要な時間が格段に減少したほか、教務システムとの連動によって教職員がリアルタイムで出欠状況を把握でき、学生のサポートにも役立っています。

日本の大学で初めて出欠確認に顔認証システムを本格導入したとあって、マスコミからの問い合わせが殺到。SNS上でも大きな反響が見られました。

兵庫医科大 国内初の試み
学生の出欠 顔認証で
代返を防止、心身の不調把握

神戸新聞※の一面に掲載された取材記事
※2019年5月13日 夕刊

タブレットで自分の顔を認証